



Title	趣旨説明：北海道大学院法学研究科研究推進ボード主催研究会 婚外関係の多様化と法的保護のあり方 自己決定を支える法の論理
Author(s)	古谷, 旬
Citation	北大法学論集, 57(4), 207-208
Issue Date	2006-11-30
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/16933
Type	bulletin (article)
Note	資料
File Information	法学論集9-1.pdf



[Instructions for use](#)

〈北大大学院法学研究科研究推進ボード主催研究会〉

婚外関係の多様化と法的保護のあり方

——自己決定を支える法の論理——

二宮 周 平
渡邊 泰 彦
大島 梨 沙

趣旨説明
目次
第一報告 日本における婚外関係の多様化と法的保護
第二報告 ヨーロッパにおける同性カップルの法的保護
コメント

古 矢 二 渡 大
矢 宮 邊 島
周 泰 梨
旬 平 彦 沙

趣旨説明

以下に掲載するのは、二〇〇六年三月二十五日（土）、北海道
大学大学院法学研究科において行われた研究会「婚外関係の多
様化と法的保護のあり方―自己決定を支える法の論理」の報
告の記録である。

この研究会は、わが国の「大学院教育の実質化」を主眼とす
る文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択さ
れた本研究科プログラム「学生主導型の研究マネジメント力養
成」の一環として実施された。同プログラムは、大学院生をは
じめとする若手研究者たちが着実に研究成果を挙げてゆいた
めには、学習能力や研究能力に加え、自ら主体性をもって研究を
企画、管理、運営し、具体的成果に結びつけていく力――す
なわち「研究マネジメント力」――が必要であるという前提

に立ち、本研究科から選抜された学生によって編成された「研
究推進ボード」主導の研究展開を企図するものである。

本研究科は全面的に、この推進ボードのメンバーの一人であ
る北海道大学大学院法学研究科修士課程（当時）大島梨沙氏の
企画、調整、運営にかかるものである。したがってすでに独り
立ちした専門研究者が主催、実施する研究会とは異なり、構想
においても実行過程においても経験不足に起因する多くの不
備、手落ちがあったかもしれない。しかし、にもかかわらず報
告者、当日の参加者各位の積極的関与によって研究会自体は活
発にかつ学問的に高い水準の議論を展開できたことを喜びた
い。これが一つのきっかけとなり、今後研究科全体でも大学院
生主導の国内他大学や外国の研究機関の研究者との研究交流が

古 矢 旬

料

活発化することを期待したい。

資

最後に、今回の企画全体が大学院生による前例のない野心的企画であるということ在意気に感ぜられ、御多用をおして手弁当でわざわざ御来札、御報告いただいた二宮周平先生と渡邊泰彦先生には、この場を借りてあらためて深く感謝申しあげるとい

だいである。